

<p>2. 事業の概要と成果</p>	<p>(1) 上位目標の達成度</p> <p>①上位目標：ルサカ州チョングウェ郡において、結核感染者、結核/HIV 重複感染者に対する患者発見及び治療成績が改善強化される。</p> <p>②達成度：郡内の結核疑い者に対する結核スクリーニングを受けた者の数は2015年の900名から1354名に増加し、患者発見の努力については昨年を上回っている。これにより発見された患者は、2016年第3四半期までで178名であり、2015年(239名)の74%とほぼ例年並みであった。このため、例年より多くの努力をし、発見数は低下していることから、恐らくチョングウェ郡内の結核患者数は減少している可能性が考えられ、これは結核対策の改善によるものとも考えられ、上位目標が達成されつつある。他方、治療成績について、治療中の患者脱落率は低く(4%)保たれており、次年度においても継続的に低く保つよう、技術協力を実施する。</p>
	<p>(2) 事業内容</p> <p>事業の活動は概ね遅れなく進んでいる。以下に事業開始後12カ月間で実施した活動を説明する。</p> <p>(ア) 結核ボランティアの育成と活動支援</p> <p>●キックオフ会議 2月、キックオフ会議を実施し、保健省国家結核対策課、チョングウェ郡保健局、各保健医療施設の担当者らと事業の内容で合意した。</p> <p>●結核ボランティアの選出方法協議 1月、ボランティアの選出方法を各保健医療施設、チョングウェ郡保健局と協議した。</p> <p>●結核ボランティアの選出 1月～2月、合意した方法に基づき、保健医療施設管轄地域の住民の中からボランティアを選出し、1施設につき12名、2施設(チョングウェ郡病院、チョングウェRHC)合計24名を選出した。</p> <p>●結核ボランティアへの研修のための講師養成研修 3月、郡保健局結核担当者と結核担当看護師、ART担当看護師(32名)に対し、ボランティアへの結核・HIV/AIDS研修で講師を務めることができるよう、講師養成研修を実施した。</p> <p>●世界結核デーイベント開催 3月、世界結核デーに合わせて事業地においてイベントを開催し、地域住民に対する啓発と、メディアを通じて情報発信を行った。チョングウェ地域住民や、チョングウェ郡保健局関係者、チョングウェ郡有力者、日本大使館、地元メディアも参加し、約500名の参加者が寸劇や歌、ダンスの披露や、元結核患者の体験談などを通して、結核について学び、参加者は結核蔓延をなくすために一致団結していくことを表明した。</p> <p>●結核ボランティアへの研修(結核・HIV/AIDS研修) 5月、郡保健局結核担当者と結核担当看護師、ART担当看護師が講師となり、結核ボランティア(24名)へ結核・HIV/AIDS研修を実施した。</p> <p>●結核ボランティアへの研修(啓発活動技術研修) 5月、ザンビアの啓発活動専門家を講師に招き、結核ボランティア(24名)へ結核・HIV/AIDS研修を実施した。</p> <p>●結核ボランティア活動計画作成 結核ボランティアへの研修終了後の7月に結核担当看護師の監督の下で、保健医療施設ごと(チョングウェ郡病院、チョングウェRHC)の結核ボランティアの活動計画会議を開催し、年間活動計画を作成した。</p>

●結核ボランティア月例会議

8月より、結核担当看護師の監督の下で、保健医療施設ごと（チョングウェ郡病院、チョングウェ RHC）の結核ボランティアの活動状況を報告する月例会議を開催した。

●結核ボランティアハンドブック改訂

弊会が、地域開発母子保健省、ルサカ郡保健局と協力して2014年6月に作成したハンドブックの内容について、最新の情報に更新すべき点を、保健省国家結核対策課、チョングウェ郡保健局、各保健医療施設の担当者らと協議して改訂作業を実施した。

●啓発活動で使用する啓発教材の制作

啓発活動で住民に配布する結核リーフレットを、保健省国家結核対策課、チョングウェ郡保健局、各保健医療施設の担当者らと協議して制作作業を実施して、10月より啓発活動に参加した住民に対して配布した。

●結核ボランティアへの自転車の供与

結核ボランティアが患者訪問時に使用する自転車について、チョングウェ郡保健局、各保健医療施設の担当者らと維持管理体制について協議を行い、11月より自転車を利用した結核ボランティアの活動が開始された。

●結核ボランティアによる患者教育

結核・HIV/AIDS研修を受講することで得た知識を活用して、結核ボランティアが新規登録患者に対する教育を開始した。

●患者家庭訪問による治療支援

11月から自転車による患者家庭訪問を開始しており、治療継続支援を継続していく。

●結核疑い者に対する受診促進

11月から自転車による患者家庭訪問を開始しており、結核ボランティアが新規登録結核患者の家庭訪問を実施し、結核疑い者に対する受診促進を行っている。

●地域における啓発活動

7月より、結核ボランティア（郡病院所属の12名、RHCに所属の12名）が月2回、地域における啓発活動を実施している。

●結核担当看護師及びボランティアグループへの監督指導

結核ボランティアグループの活動が円滑に進むように、結核担当看護師及びボランティアグループへ、毎月2回の監督指導を実施している。

●結核ボランティア活動に関するベースライン調査

2-3月に、結核ボランティア、結核患者、看護師に対し聞き取り調査を実施した。

(イ) 結核ボランティアの自立支援

●所得向上研修

郡保健局及び小規模ビジネス専門家と研修について話し合い、9月に所得向上研修を実施した。

(ウ) 看護師による結核患者、結核/HIV重複感染患者管理能力強化

●ベースライン調査

2-4月に結核患者の管理状況について、ベースライン調査を実施した。

●郡病院及び3RHCの結核担当看護師、ART担当看護師に対する監督指導

結核対策とHIV対策の連携を強化するため、結核担当看護師、ART担当看護師に対し、適宜監督指導を実施している。

●結核担当部署と ART 担当部署の連携強化

保健医療施設の結核担当看護師と ART 担当看護師の連携を強化し、結核と HIV の重複感染患者に対して、結核治療薬服薬中に ART を開始できるように促している。

●新規登録結核患者の HIV スクリーニング強化

新規に結核と診断された患者は、結核担当看護師及び結核ボランティアが、HIV カウンセリング担当者と連携し、HIV について教育し、HIV のカウンセリングとスクリーニングを受けるように促している。

(エ) 結核菌検査室の能力強化

●ベースライン調査

5月に専門家を派遣し、事業地における結核菌検査能力調査を実施した。

●結核菌検査研修

5月に専門家を派遣し、臨床検査技師（全11名）に対し結核菌検査研修を実施した。

●ザンビア大学教育病院（UTH）が実施する外部精度評価（EQA）

10月に、UTHの結核菌検査室が実施するEQAに同行し技術指導を行った。

(オ) X線撮影に係る能力強化

●X線機材供与

本事業申請時には郡病院にX線機材の供与を予定していたが、事業承認直前に保健省から郡病院へX線機材が配置された。そのため、当予算を何に充てるか郡保健局と協議を行なっていたが、郡保健局より、既存の診断施設がない地域に診断施設を増設する計画があるため、2年次より事業を開始予定のングウェレレ RHC へX線機材を供与して欲しいと要望があり、郡保健局と協議を重ねてングウェレレ RHC へX線機材を供与することに決定した。すでにX線機材は購入の手続きを終え、機材は現地に到着した。

●ベースライン調査

6月に専門家を派遣し、事業地におけるX線撮影能力調査を実施した。

●X線撮影研修

6月に専門家を派遣し、X線技師（全2名）に対しX線撮影研修を実施した。

(カ) X線読影に係る能力強化

●ベースライン調査

9月に専門家を派遣し、事業地におけるX線読影能力調査を実施した。

●X線撮影研修

9月に専門家を派遣し、医師、准医師に対しX線読影研修を実施した。

●X線読影会

7月より、郡内の医師、准医師（19名）に対し、X線読影会を実施した。

（1年次に計5回、開催）

(キ) 記録/報告の強化

●ベースライン調査

2-4月に結核患者の記録、報告について、ベースライン調査を実施した。

	<p>●チョングウェ郡四半期会議 10月に郡内全30の結核治療施設の結核担当者、ART担当者（30名）を招集して会議を実施した。</p> <p>●ルサカ州レビュー会議 ルサカ州保健局と打ち合わせを行い、11月に実施した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>成果1：事業実施地において、結核、HIV/AIDSの啓発活動と結核患者及び結核/HIV重複感染患者への支援が提供される。</p> <p>【指標1】郡内の結核診断施設（郡病院、チョングウェRHC、カナカクタパRHC）においてスクリーニングされた結核疑い者数 2015年に郡内の結核診断施設においてスクリーニングされた結核疑い者数は900であった。2016年は1,354名の結核疑い患者数であった。</p> <p>【指標2】郡内の結核治療脱落率 2014年（結核の治療は最短で6カ月かかるため、2014年のデータが最新となる）の結核治療脱落率は2.0%（結核患者101人中2人が脱落）であった。2015年の結核治療脱落率は4%であった。</p> <p>【指標3】郡内の新規登録結核患者のHIVスクリーニング受診率 2015年に郡内の結核診断施設（郡病院、チョングウェRHC、カナカクタパRHC）において新規登録された結核患者全279名のうち228名（81.7%）がHIVスクリーニングを受診した。一方、2016年は99%がスクリーニングを受診した。</p> <p>【指標4】郡内で結核治療を開始した結核/HIV重複感染患者の結核治療期間中のART開始率 2015年に結核治療を開始した結核/HIV重複感染患者全151名のうち113名（74.8%）が結核治療期間中にARTを開始した。一方、2016年は81%が結核治療期間中にARTを開始した。</p> <p>【指標5】3RHC（チョングウェRHC、カナカクタパRHC、ングウェレRHC）の各結核ボランティアが実施した患者家庭訪問数 12月から患者家庭訪問を開始し、13回実施した。</p> <p>【指標6】3RHCのボランティアによる啓発活動に参加した地域住民数 5月に結核ボランティアの研修を実施し、7月より啓発活動を開始した。啓発活動に参加した住民は12月までに2,482名である。</p> <p>成果2：事業実施地において、結核診断及び記録報告が強化される。</p> <p>【指標1】郡病院、チョングウェRHC、カナカクタパRHCの臨床検査室におけるEQAのメジャーエラー数 *第4四半期（10月、11月、12月）に実施されたEQAではメジャーエラーが1例見られた。 2015年第1-4四半期のEQAで報告されたメジャーエラー数は0個であった。</p> <p>【指標2】医師、准医師に対するX線読影パネルテストの点数 9月に実施するX線読影研修前のベースライン値は10.17であった。なお、研修実施後は13.40に上昇した。</p>

	<p>【指標 3】郡病院、3RHC から郡保健局への四半期報告書の締切後 5 日以内提出率</p> <p>2016 年第 1-4 四半期の締切後 5 日以内報告書提出率は 100 %であった。</p> <p>( * 第 2 四半期は 100%である。)</p> <p>2030 年までに結核の蔓延防止は SDGs のゴール 3 において誓約されている。すなわち、2030 年までに結核死を 90%、結核発病を 80%を減少させるとされる。本プロジェクトでは、結核疑い者の結核スクリーニングを実施し、結核診断をされた者は速やかに治療につなげ、感染の連鎖の切断と、結核に依る死亡の削減に寄与している。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業では結核ボランティアや医療従事者に対する研修を実施し、また、業務上の課題などについて四半期会議、年次会議等を通じて共有、討議し、解決策を話し合うなどの事業により、将来に渡って、結核対策の維持・継続に貢献している。研修で学んだこと、業務を通じて解決してきた経験等は、事業終了後も Institutional に記憶され、伝えられていく。また、結核ボランティアの維持発展性についても、所得向上研修などを通じて指導を行うことにより、結核ボランティアが何らかの所得を得て、事業終了後もボランティア活動を継続できるような仕組みづくりを行っている。ザンビア国では、他地域においてコミュニティ・ヘルス・ワーカー (CHW) 制度が導入されつつあり、ヘルスセンターで活動するボランティアが CHW に採用される例が多く認められている。今後、チョングウェ郡に CHW 制度が導入される折には、結核ボランティアが CHW にできるだけ採用されるよう働きかけてゆく。結核ボランティア制度については、2010-16 年の国家結核対策戦略プランに記載されている活動であり、保健省が認められている国内で普遍的な活動である。現在、2016-20 年に向けた国家結核対策戦略プランの策定中であり、この中でも保健省が結核ボランティア制度を認識し、強化発展させるよう働きかけてゆく。ザンビア国保健省は、財政面から、保健事業を 100%負担できないが、世界基金等の Fund を用いて、今後も結核 (及び HIV/AIDS) 対策を継続していく見込みは高いため、今後も、N 連事業で達成した成果を引き継ぐように事業終了に向けて、働きかけてゆく。</p>